

# 第1回IF学生成果発表会

2011. 8. 24

医学部1号館第2セミナー室

## Transcription networks and signaling pathways or regulation of cell proliferation グループ

### ● ● 開会の挨拶 ● ● ●

中山 啓子 教授 (細胞増殖制御分野)

3年前、このグローバルCOEでNetwork Medicineを発展させるためには、どのような方法があるだろうか、と何度も話し合いを持ちました。そして、研究者同士がコミュニケーションし、自分達の知らない分野を自主的に学ぶことが重要であろうとの結論に至りました。これが、IF発表会の目的です。是非今日は、自分たちの同級生達がどんな研究をしていて、何が面白くてどこが面白くないのかを確かめて、お互いに意見を交換し、より高めていってもらえればと思います。他の人の発表では理解できない点が沢山出てくると思います。そうなることが前提でこの発表会を開催しています。それは全く恥ずかしいことではありません。ここがわからないです、とどんどん質問して下さい。それに対して発表者は丁寧に説明して下さい。むしろ質問することは、ここの場にいる人の礼儀だと考えて、積極的な討議をしてください。座長の武藤先生がもういいよと言うくらい、楽しいディスカッションをして下さい。



### ● ● 発表 ● ● ●

小林 枝里 (医化学分野)

「Roles of GATA1/Rb interaction in control of megakaryocyte proliferation」

第1回IF発表会のテーマである「増殖」は、とても基本的な生命現象でありながら、その制御機構にはまだまだ謎が残っている面白い現象です。本発表会では、その謎に対して他の発表者の皆さんが様々なアプローチで挑んでいることがわかって、今後の自分の研究にも学ぶところの多い会でした。私の研究テーマは、転写因子の機能によってなぜ細胞の増殖が変化するのか、というものですが、他の転写因子について同様の現象を追っている方の発表も聞くことができ、実験の進め方、仮説の立て方など、参考にしたい点が多々ありました。さらに、分子生物学の成果を今まさに臨床に応用しようとしている研究もあり、とても興味深く思いました。様々な分野の発表が集まるIFならではの、刺激的な発表会となったと思います。



光石 陽一郎 (医化学分野)

「Transcription factor Nrf2 drives the pentose phosphate pathway and glutamine consumption in proliferating cells.」

今回、細胞増殖の制御機構というテーマで多くの分野の大学院生が研究成果を持ち寄って議論するというとてもいい機会をいただきました。研究室とは異なる視点からのコメントを多くいただき、自分の研究の意味を改めて考えさせられました。また、20分の英語でのプレゼンテーションということで、内容を普段よりもわかりやすくシンプルにまとめるようにしました。振り返ると、それが今度は自分の日本語のプレゼンテーションを考え直す良いきっかけになっています。このような機会を作っていただきました、NM-GCOEの先生方、拠点支援室の皆様には厚く御礼申し上げます。





### 三浦 佑一（生物化学分野）

「Transcriptional repressor Bach2 promotes B cell receptor-induced proliferation and survival of B lymphocytes.」

今回の発表会は、所属が異なるも研究テーマに共通点がある大学院生がグループ分けされた中で行われました。博士課程修了前の大学院生が発表を通して意見交換することでお互いに刺激しあい、また普段ご意見を頂戴する機会が少ない他研究室の先生方から様々な角度のアドバイスされたことはそれぞれの研究の意義や研究の方向性を再確認する上で貴重な機会となったと思います。

自分の発表においても多くのご質問やご意見をいただき、既知の疑問点に加えてこれまであまり意識していなかった部分にも気づかされました。今回得た有意義な情報を生かし、学位審査に向けてさらに研究を前進させていきたいと思っています。

### 荒木 孝明（細胞増殖制御分野）

「ユビキチンリガーゼ SCF<sup>β-TrCP</sup> の機能解析」

大学院 4 年目で学位提出前に何か御指導頂ければと思い参加致しました。今までの研究結果をまとめて発表内容の原稿を作製する中で、今後残された時間ですべき実験や不足していた実験などを再確認することができました。当日は、多くの先生方に御臨席頂き、かなり緊張しましたが、発表する（練習する）機会を得たことは非常によい経験になったのではないかと思います。実験の具体的な内容に関しても貴重な御意見を多数頂きありがとうございました。



### 黄 志芳（婦人科学分野）

「Curcumin disrupts uterine leiomyosarcoma cells through AKT-mTOR pathway inhibition」

今回の IF 成果発表会は細胞増殖を巡る様々なメカニズム、現象、疾患についての発表会でした。GATA1、Nrf2、Bach2 などの転写因子の研究の話が出ましたが、PI3K-Akt-mTOR 経路と絡んだ話が多く、正しく最近のホットな話題に触れている研究が多かったです。細胞分裂の詳細なメカニズムについての研究もありましたが、全く分からない単語がたくさんありすぎて、理解できませんでした。その後の先生達の質疑応答を聞いたら、少し理解できるようになったので、質疑応答の大切さを改めて認識させてもらった機会でした。このように色々な研究と触れあえて、他分野の大学院生または教員達と交流できたことに感謝しております。



### 池田 真教（生命・情報伝達分子解析分野）

「Critical roles of Furry on the spindle microtubule」

昨年度に続いて 2 年連続での発表会への参加となりましたが、本年度は昨年度以上に活発な質疑応答が繰り広げられ、有意義な発表会を過ごすことができました。発表会では分野外の先生方が多く、様々な視点からたくさんの質問を受けることができ、また、最終審査を前に、これまでの研究成果をまとめるよい機会にもなりました。最後にお忙しい中、お集りいただきました NM-GCOE の先生方、拠点支援室の皆様へ深く御礼申し上げます。





### 小渕 航 (薬学・薬物送達学分野)

「Personalized molecular-targeted chemotherapy for malignant brain tumor based on results from quantitative targeted absolute proteomics」

今回の IF 成果発表会で発表させて頂きました薬学研究科博士後期課程 1 年の小航と申します。他の演者の方々の発表から、日ごろ聴く機会あまり無い医学系の方々の研究内容に触れることができ非常に楽しませていただきました。薬学研究科在籍ということもあり他の演者の方とは少し異なる内容の研究でしたので理解して頂けるか若干不安はありましたが、質疑応答の際はたくさんの質問およびコメントを頂きました。また、私は臨床応用を目指した研究を行っているため、実際の臨床の場で働いている先生方からのコメントも多数頂き、今後の私の研究を発展させるための重要な示唆を得ることができました。今回の経験を活かして研究のみならず成果発表や質疑応答の能力についても高めていきたいと思ひます。

### ● ● 閉会の挨拶 ● ● ●

#### 水野 健作 教授 (生命科学研究科・情報伝達分子解析分野)

IF 発表会に出ささせていただいて 2 回目なのですが、前回の時に比べて、非常に発表の内容も分かりやすく聴かせていただきました。グループとして「細胞の増殖」ということに課題を限定していたこともあったと思ひますけれども。

こういう機会をどんどん増やしていくことによって、どのように自分の研究が面白いかということをお他の分野の人にも伝える能力、プレゼンテーション能力を高めるということがこれからも大事だと思ひますので、これからも機会があれば積極的に発表していただきたいと思ひます。また、発表の中に、いくつか当初考えていたストーリーに合わないとか、相互に矛盾する結果が得られたという発表があり、それを悩んでおられるというような話もありました。しかし、そういった当初のストーリーに合わない結果が出たり、矛盾した結果が出て来た時こそ一つのチャンスであって、そういう時こそ画期的な、これまでの概念を覆すような新しい成果につながる可能性があるかと思ひますので、そういう方も、自分のデータを信じて、また、頭をよく使って、それが画期的な成果につながるよう頑張っていたいただきたいと思ひます。今日発表された方の多くが博士課程最終学年の方だと思ひますので、3 月には皆さんが揃って学位をとれるように頑張っていたいただきたいと思ひます。



### オーガナイザー・司会

#### 武藤 哲彦 先生 (生物化学分野・准教授)



プログラムや運営面での段取り、当日の司会をしていただきました。沢山の聴衆が集まる中、終始穏やかな語り口で進行して下さい、学生も安心感を覚えたのではないのでしょうか。

大変お疲れ様でした。

